

# プログラム

| 9/21(月)         | 9/22(火)            | 9/23(水)             | 9/24(木)                               |
|-----------------|--------------------|---------------------|---------------------------------------|
| 第5回日本伝道会議       |                    |                     |                                       |
|                 | 聖書講解               | 聖書講解                | 聖書講解                                  |
|                 | プロジェクト(1)          | プロジェクト(2)           | エンディング<br>セレモニー<br>(宣言文採択)            |
|                 | シンポジウム<br>／<br>分科会 | シンポジウム<br>／<br>青年大会 | JCE5 5th Japan Congress on Evangelism |
| 受付              |                    |                     |                                       |
| オープニング<br>セレモニー | 聖会                 | 宣教大会                |                                       |

## 【祈禱課題】

- † 多くの参加者(教職者・信徒)が与えられますように。
- † 実行委員会ははじめ各プロジェクトの働きのため。
- † 本会議に賛同される方々が、教団・教派の枠を超えて日本の伝道のため協力関係を築くことができるように。
- † 開催地委員会(委員長：八尋勝)の働きのために。
- † 会議の必要の一切が満たされますように。  
(予算総額 5,800 万円)



## 【献金送付の郵便振替口座】

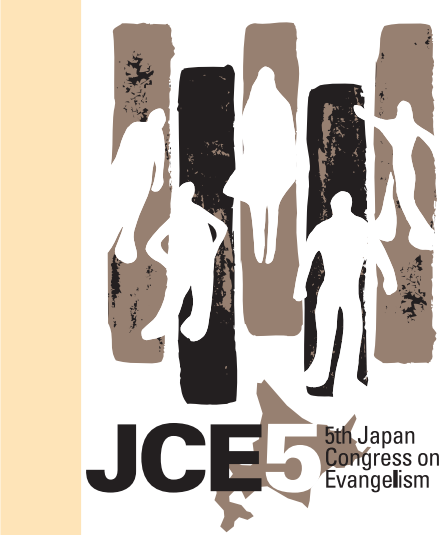
加入者名： 日本伝道会議

口座番号： 00160-5-483965

## 《編集後記》

新年度と共に伝道会議も始動いたしました。  
今回、ニュースレター第一号をお届けいたしました。  
今後3ヶ月毎に発行いたします。参加費用、申し込み方法は、今年秋を目途に準備を進めております。  
参加申し込みは、2009年1月からの予定です。  
お祈りと共に、今からご準備ください。

第5回日本伝道会議運営事務局  
編集・発行 石田敏則  
〒101-0062  
東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル  
JCE5 事務局  
Tel:03-3295-7321 Fax:03-3295-1933  
ホームページ：http://jce5.net  
e-mail: main@jce5.net  
発行責任者 矢木良雄  
印刷デザイン：奥多摩バイブルシャレー



JCE5 ニュースレター No.1

第5回 日本伝道会議

2008 年  
4 月発行

2009. 9/21(月)~24(木)

危機の時代における宣教協力  
～もっと広く、もっと深く～  
～宣教 150 年を迎える新しい日本と教会を拓くために～

http://jce5.net



## 第5回日本伝道会議のご案内とお願い

実行委員長 原田憲夫

「来たれ。ヤコブの家よ。私たちも主の光に歩もう。」  
イザヤ 2:5

私たちは、2000 年 6 月紺青の海・南の島沖縄から、2009 年 9 月深緑純白の山・北の大地北海道へと時と場所を移し、第 5 回日本伝道会議を開催いたします。

これまで「日本伝道会議」は、戦後日本にあって「福音主義」に立つ教会、殊に「聖書を誤りなき神の言葉」と告白する群れ(「福音派」)の成長に伴い、一致と協力の必要から開催されました。

第 1 回(1974 年／京都)、第 2 回(1982 年／京都)、第 3 回(1991 年／塩原)では、「日本をキリストへ」の標語を掲げ、「福音(救い)」、「教会(協力)」、「宣教(国内外)」のテーマに照準を合わせ、みことばより洞察し、「福音派」の自己理解を共有する媒体として大事な役目を果たしてきました。

また、第 4 回(2000 年)ではこれまでのテーマ、結実を継承しつつ、21 世紀という「時」を機軸にして「日本」の教会としての「固有な役割」と、世界の教会と「共有する責任」を深く探りました。その結果、「和解の福音をともに生きる教会」の構想(Vision)を、「沖縄宣言」を通じて示しました。

そして第 5 回(2009 年)は、この「沖縄宣言」の内容の実践・遂行(Mission)のために開催する会議と位置づけて、プログラムの準備が進められています。

折しも、2009 年はプロテスタント宣教 150 年を迎えます。先達のこの国での福音宣教の足跡を通じて現在の自らのあり方を問う機会となることを願います。

最後に、この会議開催にあたり、福音の使者・伝道の担い手である教会、とりわけ神のことば(聖書)を信仰・生活の唯一絶対の規範とする教会の祈りと知恵と力がどうしても不可欠です。今回は聖書講解講師のナレンドラ・ジョン博士(インド・フリーメソジスト教会監督)はじめ、内外からすぐれた神の器の参加を期待しています。しかし何よりも参加者自身が実践者、体現者として伝道会議を実のあるものへと引き上げ、また深めていただきたいと願っています。今よりご準備くださり、一人でも多くの諸師兄姉のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

「霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘し」(ピリピ 1:27)と使徒が呼びかけたように、この国での福音宣教に手と手を結んで励みつつ、2009 年 9 月、北海道・札幌でお会いしましょう!!



## 企画推進プログラム局から

### JCE5 企画推進プログラム局長 竿代 照夫

「沖縄宣言」中の「和解の福音に生きる」という項目で、教会の公同性に立って、地域間の教会協力、教派同士の協力、特定分野での超教派的な協力、地球環境の保全のための戦い、神を否定する政治勢力との戦いが協力の分野として挙げられていました。それから 8 年、大きく前進した分野もあり、あまり進展しなかった分野もあります。

沖縄宣言が指摘している以上に危機は増大している現況を弁えつつ、第五回伝道会議のテーマは「危機時代における宣教協力」と定められました。サブ・テーマとして「もっと広く、もっと深く」という言葉が加えられたのは、このたびの会議を、今までなされてきた宣教協力を広め、深め、充実するためのものと位置づけようという願いからのものです。

これらを、伝道会議のプログラムに反映させるために、次のことを考えています。

〔プロジェクトを軸にする〕

既になされている宣教協力を 14 の分野（地域での教会協力、信徒の活動、在外日本人伝道、青年活動、家庭、環境問題、対社会問題、教派間対話など）に分け、協力のネットワークを広げ、強くし、具体化を進めます。これを「プロジェクト」と

と呼び、それぞれに核となるリーダー、メンバーを確定し、伝道会議の前に運動を進めたいと願っています。伝道会議の二朝をこれに当て、すべての参加者にどこかのプロジェクトに加わっていただいて、協力の輪が広がることを期待しています。会議の後にもこれが継続し、第六回につながるような息長い協力の実を得たいと願っています。

〔北海道で行う意味を考える〕

伝道会議の開催に対して、北海道の諸教会が積極的に取り組んでおられます。「札幌バンド」そのほか、宣教 150 年の歴史の中で果たした北海道の役割は小さくありません。また、アイヌ民族の文化を理解し、福音との関わりを考えることは、他の諸課題にも適用できる宣教学的な理解を深めることになりましょう。こうした課題が、主題講演やシンポジウムなどで正面から扱われます。青年大会も、道内と外からの青年が融合する機会となるために企画されます。

〔地域・年代別の交わりの場を作る〕

2 日に亘るランチタイムを地域別、年代別の塊で行い、それぞれに、今後につながる交わりが形成されることを期待しています。

〔多くの信徒参加を期待する〕

今回は信徒の参加を得易いように、開催の日程を祝日にしました。信徒方が参加し易い、魅力的なプログラムを組んでいます。

## 集会はこのようにもたれます

| 枠      | 内 容             | 時間の幅            | 持ち方       | 実 施                  |
|--------|-----------------|-----------------|-----------|----------------------|
| プロジェクト | 協力的なものについての作業部会 | 会議前後の継続的取り組み    | プロジェクトに参画 | プロジェクトが企画            |
| シンポジウム | より重要なテーマの学び     | 一時的<br>(会議期間のみ) | 講演と質疑     | 局                    |
| 分科会    | 諸課題の学び          | 一時的<br>(会議期間のみ) | 発表と質疑     | プロジェクトが企画<br>他の申込も受付 |

全体集会の他に、(1) プロジェクト、(2) シンポジウム、(3) 分科会という三つの枠が設定され、それぞれ位置づけが違います。プロジェクトは、会議の前年から数名のメンバーでプロジェクト・チームを組んで始動し、会議期間中の二枠で、参加者の皆さまとディスカッションを行い、それが会議後の協力関係につながることを視野に入れて取り組む、いわゆる「プロジェクト」です。会議の参加者は必ずどこかのプロジェクトにエントリーしてください。シンポジウムは、中規模の講演と質疑応答の時間です。分科会は、会議

期間中に限定したディスカッションの時間です。各プロジェクト・チームが、プロジェクト内容から派生するトピックについてさらにディスカッションを深めたい場合、あるいはそれ以外にも、メイン・テーマである「宣教協力」を考えたときに有意義であると思われるトピックについて、各団体などから提案があった場合、それも前向きに検討しながら分科会を設定して参ります。ご提案はプログラム局までご遠慮なくお寄せください。

## 企画推進プロジェクト

Project

|          |       |                            |
|----------|-------|----------------------------|
| 日本宣教     | 西岡義行  | (東京ミッション研究所)               |
| 地方伝道     | 藤原導夫  | (お茶の水聖書学院)                 |
| 地域宣教協力   | 三川献児  | (日本同盟基督教団)                 |
| 教会・教団間協力 | 畑野順一  | (日本フリースソジスト教団)             |
| 信徒活動     | 玉井邦美  | (日本同盟基督教団)                 |
| 世界宣教     | 永井敏夫  | (日本ウィクリフ聖書翻訳協会)            |
| 社会／平和    | 荒川雅夫  | (福音伝道教団)                   |
| 共生／援助／福祉 | 阿部信夫  | (エヴァンジェリカル・コングリゲショナル・チャーチ) |
| 教会教育     | 錦織 寛  | (日本ホーリネス教団)                |
| 女 性      | 丸山園子  | (日本同盟基督教団)                 |
| 青 年      | 三橋与志哉 | (日本福音自由教会協議会)              |
| 環 境      | 住田 裕  | (日本長老教会)                   |

「宣言文起草」と「プロテスタント宣教 150 年」が準備を進めています。

JEA 各種委員を中心にプロジェクトを進めていきます。

## 日時・会場案内

開催日：**2009 年 9 月 21 日 (月)～24 日 (木)**

開催地：**北海道・札幌市 札幌コンベンションセンター**

交 通：新千歳空港より札幌駅経由で約 1 時間

札幌中心より地下鉄で 20 分



詳しくはホームページ  
をご覧ください

<http://www.sora-scc.jp>



札幌コンベンションセンター 〒003-0006 札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1

JCE5  
分科会募集  
のご案内

分科会を希望する方は、**6月1日**までに、事務局までお申し込みください。  
会場に限りがありますので全ての応募にお答えできないことがあります。

